

▼ナルベイン注 [注]

【重要度】★★ 【一般製剤名】ヒドロモルフォン塩酸塩 Hydromorphone Hydrochloride 【分類】がん疼痛治療用注射剤

【単位】▼2mg/A [1mL]・▼20mg/A [2mL]

【常用量】1日0.5～25mg/日

○増量の目安は1日用量の25～50%増

○レスキューは1日量の1/24

■オピオイド未使用例：0.5～1.0mg/日から開始

■オピオイド使用例：全治療薬の用量等により決定 [モルヒネ注の1/8設定]

■ヒドロモルフォン経口剤から切り替え：1/5量設定

■フェンタニル貼付剤からの切り替え：剥離後の半減期（17hr）を考慮して開始タイミングを設定し、低用量から開始

【用法】持続静注または持続皮下注 [中止時は漸減]

【透析患者への投与方法】低用量から投与を開始（1）

【保存期 CKD 患者への投与方法】低用量から投与を開始（1）

持続静注での全身 CL は 50% に低下（Nakatani T, et al: J Palliat Med 2023 PMID: 36579915）

高用量、長期投与では中枢症状に関連する可能性があり注意してモニター（Lee KA, et al: J Palliat Med 2016 PMID: 27399959）

神経症状（興奮）は腎機能低下と関連があるかもしれない（Kullgren J, et al: J Palliat Med 2013 PMID: 23930920）

【特徴】

【主な副作用・毒性】

【安全性に関する情報】

【F】皮下注 100%（1）

【tmax】

【代謝】グルクロン酸抱合により H3G に代謝（1）抱合体の活性はごく弱い（1）

【排泄】

【CL】持続投与時 51.3±17.4L/hr [iv]，61.2±23.2L/hr [sc : CL/F] （1）

【t1/2】2.5hr [iv]，5.1hr [sc]（1）

【蛋白結合率】24～30%（1）

【Vd】

【MW】321.80 [salt]

【透析性】

【O/W 係数】

【肝障害患者への投与方法】

【小児 CKD 患者における報告】

【妊婦・授乳婦への投薬】

【主な臨床報告】

【更新日】20241010

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。